



荏田米うさぎ
50周年キャラクター

3月号 令和6年2月29日発行 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町6-9-4番地 [TEL.911-0149]



違いを認め、お互いの独立を認め合う理解のある生き方 ～福澤諭吉の子どもたちへの教えから～

校長 伊藤 智樹

令和5年度も残り1か月になりました。今年度は5月の連休明けに新型コロナウイルス感染症の感染症法での位置づけ変更により、従前のような教育活動ができるようになった1年間でした。その一方で新型コロナ感染症が減少してきた時期には、インフルエンザ感染症や感染性胃腸炎等が流行したり、記録的と言われた高温が連日続いたりと予防的に教育活動を制限することもありました。

給食も以前のようにグループで喫食するようになってきましたが対面での給食を経験しているのは5・6年生のみでした。再開してみると子どもたちは楽しそうに食べています。

福澤諭吉は2人の子どもたちに半紙を四つ折にした帳面を作り、明治4年10月14日から11月にかけて、毎日ひとつの教えを書いて渡しました。昨年度の学校だよりでも「10月16日子どもの独立」という内容を引用させていただきました。今回は翌日10月17日に渡した内容の一節をご紹介します。

10月17日 人の心の違い

人の心が違うことは、人の顔がそれぞれ違うのと同じです。人の心は、誰も同じではありません。人には丸い顔もあれば、細長い顔もあります。その心もまた、それぞれの生まれつきで同じではありません。気の短い人もいますし、気の長い人もいます。静かな人もいます。騒がしい人もいます。ですから、人の行うことを見て、必ずしも自分の気に入らないからといって、短気をおこしたり、怒ったりしてはいけません。

福澤諭吉：現代語訳「^{どうもう}童蒙おしえ草 ^{くさ}ひゞのおしえ」岩崎弘訳
2008 慶應義塾大学出版

人の心・考えは同じではありません。1学級に30人の子どもたちがいれば、30通りの考えがあるかと思えます。具体的に視覚的な違いはお互いに分かりやすいですが、見えない「心」の違いは相手を理解しないとトラブルのもとになります。そのため、他者への想像力が必要となります。事象を通して背景にある「人の営みや知恵、目には見えない人の心に思いを寄せること」これは1月号でも記載した私の授業観です。

学校の中ではよく学級会や児童会・生徒会活動といった活動が行われます。保護者の皆様にも小中学校時代で経験をされているかと思えます。多数決で物事を決めていくことも時には

必要です。その一方で他の意見を取り入れながら「折り合い」をつけることも大切なスキルとなってきます。

「10月16日子どもの独立」では、**自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うことを意味する独立自尊の考え**方が述べられています。



「10月16日子どもの独立」「10月17日人の心の違い」を読むと福澤諭吉が自分の2人の子どもたちに一人勝手に独立していくのではなく、まわりの人の考えや迷惑も考え、**お互いの独立を認め合う理解のある生き方の大切さ**を伝えていたことがわかります。150年以上も前の著書ですが、現代の学校教育にも通じる内容です。



意図的・計画的な教育活動を通して子どもたちの「互いの独立を認め合う理解のある生き方」を目指すことが教育の目的であることをこの著書から感じました。

卒業していく6年生とともに、令和5年度の総まとめをし、令和6年度を迎えたいと思います。

今年度も、保護者や地域の皆様にはたいへんお世話になりありがとうございました。来年度も地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼される学校を目指し、教職員一丸となって努力を積み重ねて参ります。引き続き温かいご支援ご協力をよろしくお願ひします。